

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390120766		
法人名	社会福祉法人 岡山博愛会		
事業所名	グループホーム まこと ユニット共有		
所在地	岡山市中区御幸町4-1		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年岡山博愛会の誕生の地に在宅サポートセンターミッションハウス、グループホームまことが開設した。1階には、御幸町クリニック、看護小規模多機能型居宅介護のぞみ、2、3階にグループホームがあり、「在宅支援」「医療支援」「認知症支援」の3つの支援体制で安心した生活が送れるよう支えます。また、隣接している博愛会保育園があり、子どもたちと触れ合うことで笑顔が増え、安らぎの場作りと生活の向上を目指します。「もう一つの我が家をめざして」を目標に入居者の方、ご家族の要望や希望を大切に実現出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

先だって岡山博愛会のグループホーム まことを始めとして、地域包括ケア病棟や各種の施設を見学させていただいた。さらに私達が幼い子供達の元気な声や姿を身近に触れたいと願うのは当然の事だろう。我が家に匹敵しかねないこの環境の中で安心して快適な生活が送れる方々は「何よりの幸せ」と思う。私事ではあるが、明治時代に生きた母達が、「アダムス先生」とか「岡山博愛会」等の名称をよく話していたのを覚えている。岡山市の住民の信頼感覚は根強く残っている。現在はコロナ禍の為に、運営推進会議や地域の人達とのつきあい・その他あらゆる計画が思いと異なって順調に進まない。今は、無理の無いようにゆっくり進んで下さい。地盤は確実に緩まず、信頼され続けている法人と思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「自分がして欲しいように人にしてさしあげる」を基本に「もう一つの我が家をめざして」を目標に掲げ、入居者の方、ご家族の希望や要望を実現出来るように取り組んでいる。	グループホーム まことの種々の資料や説明書のあちらこちらに「もう一つの我が家をめざして」が見られる。この言葉がまことの理念として掲げられ、職員全体の意気込みが伝わってくる。築かれたこの我が家で、何人かとお話させていただいた利用者は楽しそうな笑顔を見せてくれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスのため地域との交流が難しいが、入居者の方、職員ともに散歩や外部に出た際は、近所の方に挨拶や会話をする事がある。隣接する博愛会保育園の園児と春はさつま芋植え、秋には収穫をし交流をしている。	地域密着型サービスとしてのグループホームは、現在地域の方々とのつながりを深める方法を得る事もなかなか難しいが、今出来る可能な方法で情報交換や交流をして、将来の為の下地を積み重ねておいて下さい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が地域の貢献に配慮して、介護等における相談にも応じている。今年の秋より専門学生の実習の受け入れをする予定になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスのため会議は開催できていないが、ご家族、地域、包括支援センター職員へ書面にて活動報告し要望、評価、助言をもらっている。意見は、活動や勉強会に取り入れている。	グループホームの運営に地域の方々やご家族・その他の関係者による会議で話し合われる必要があるが、現在は書面で連携を持つしかない。ホームとしては確実に必要な報告や情報提供をしているし、各自必要な意見や情報をホームに伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度相談し助言をもらっている	法人として、また、ホームとして市町村との連携について特別に問題は無いが、入居者や入居希望の家族の相談や問い合わせに関しては指導をお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待防止委員会を中心に、入居者の方の現状把握や環境の見直しを行い、職員間で情報の共有し日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待に関する委員会で定められた取り組みを実施しているが、禁止の対象にならない日常的なケアや何気ない言動等について、お互いに話し合ったりアンケートをとる等、より留意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待防止委員会を中心に、勉強会を実施し職員の意識や知識を統一し防止に努めている。また、ケアの振り返りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方1名。制度について勉強する機会がすくないため、今後勉強会の実施を検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書、重要事項説明書にて説明を行っている。その都度ご家族の度意見を確認している。変更時にも説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話をかけた際には、近況報告、毎月のお便りを送付し、ご家族と意見交換している。	運営推進会議が開催出来ない状況下にあっても、書面でご家族からの意見や思いが伝えられているし、日頃の問題についてはお便りや電話・メールの遣り取り等で、些細な事でも丁寧な説明や意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員間で情報交換している。また、毎月チーム会を実施し、意見や提案した内容を取り入れられるようにしている。当日、参加できない職員には、事前に意見を聞くようにしている。	ホームの運営に関する意見だけでなく、利用者の皆さんの思いや希望・好みや欲しい物等を聞いたり話し合ってユニットで共有する等、より一層利用者本人やご家族に満足した日常が提供出来るよう、積極的な活動をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットリーダーとともに職員の労働状況の情報共有や、個々にも声掛けを行っている。また、職員が入居者の方に対して提供したいケアが出来るように取り組んでいる。勤務時間や希望休についてできるかぎり要望を聞き調整し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスのため、外部研修には参加出来ていないが、法人内の研修に参加し一人ひとり知識を深めている。まこと内でも委員会を中心に勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の際、情報交換を行っている。また、同建物内の看多機職員と情報交換しミッションハウス全体で入居者の方のケアが出来るように協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談へ行った際、本人やご家族の思いや不安などを聞き少しでも対応することで不安の軽減が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時、ご家族の要望や思いを聞いている。入居後、面会時などには近況を報告し、再度要望を聞き、安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご家族に会える際は、不安や困っていること、サービスを受けている事業所や病院から情報を得、職員間で話し合いケアへと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の味付け、準備、片付け、掃除、洗濯たたみ、野菜作りなど職員と共に協力、支えながら生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、テレビ電話を活用したり職員が間を取り持ち関われるように機会を設けている。お便りや新聞にて近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、手紙のやりとりをしている方もいる。また、友人の方が尋ねてこられ、テレビ電話にて面会話ができるように支援している。定期的に友人の方が電話をかけてこられる方もいる。	コロナ禍にあつては、家族・友人等との直接面会は制限があるが、少しでも馴染みの関係を継続させる為の様々な工夫をしている。携帯電話を持って家族や友人と自由に交信をしている人もいて、職員も出来る限りの支援をしている。	開設時より新型コロナウイルス感染防止の環境下に置かれ、家族と直接触れ合う機会も少なく、今はウェブ面会での対応であるが、コロナ収束の折には今まで以上に馴染みの関係をしっかり支援してあげてください。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操や歌を歌ったり、作品作りなどを通じて他者と交流ができる時間を設けている。一人で過ごすことが好きな方もおられ、居室で過ごしている際は職員が訪室しコミュニケーションを図っている。また、入居者の方お部屋に尋ねて行く姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供を行っている。法人内の施設や病院へ退去された方へ会いに行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中や生活歴、ご家族から自宅での様子等を聞き、好きなことや趣味活動など日々のケアの中に取り入れている。	暮らしの情報(私の生活史ノート)等の記録からも一人ひとりの願いや要望、楽しい事、したい事等をよく把握している事が分かり、思いを実現出来るように頑張っていると言う職員の言葉からも、日頃から利用者とのコミュニケーションに努めている事がうかがえた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族へフェイスシートを記入してもらい情報を得ている。また、本人やご家族との会話の中からも情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の発言や行動、表情など生活記録へ記入し状況の把握に努めている。職員間での申し送りやチーム会で一人ひとりの状態を話し合い情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケアプランの評価、毎月総合的に評価を行っている。ケアプラン立案の際には、ご家族の要望の取り入れや職員間で話し合い作成している。	家のような気分で過ごしてもらう事を基本にして、本人・家族の要望を実現出来るように、職員間で話し合いケアプランを作成している。定期的なモニタリング、ケアカンファレンスから利用者の心身の状態を把握し、現状に即したプランを作成するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や日々のモニタリングに評価を記入し、カンファレンスで検討している。連絡ノート等活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニットでその都度ミーティングを行い、対応している。また、1階にある御幸町クリニックや看多機のぞみ職員へ相談し助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接している博愛会保育園の園児と交流ができるよう、春と秋には交流の機会を作っている。日頃では、窓越しに手を振り合う姿もみられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の希望を聞きかかりつけ医を決めている。その都度体調の変化が見られた際には、報告し情報の共有をしている。	母体の博愛会病院をかかりつけ医としていた人も今はミッションハウス1階の御幸町クリニックに変わり、利用者全員クリニックのDrを主治医としている。今日は2週間に1回の往診日との事で、Drと看護師が訪問中だった。他科受診が必要な時は紹介状を書いてもらい、職員が受診に同行している。また、職員に看護師がいるので介護と医療の連携がよく出来ており心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃からコミュニケーションを図り、状態の把握をし、変化時は連絡、指示を受け早期対応ができる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院へ訪問し相談員、看護師に状態を確認するなど対応している。早期退院出来るように医療関係者と連携し情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、急変時の治療方針や看取りの方針など意向を聞き書面へ記載している。希望の変更がある際は、その都度対応している。	開設して1年ほどなので、重度化やターミナルに近い人もなく、看取りの経験はない。「緊急時病気対応と看取りの希望」で家族の意向確認をしている。今後、本人・家族から希望があれば医療機関と相談しながら出来る限りの支援をしていく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の対応がすぐに確認できるようにマニュアルの作成や勉強会を行っている。事故発生時は、ミーティングを開催し対策、方法を検討、見直しをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同建物内にある看多機やクリニックの職員とともに年2回消防訓練、災害時避難訓練を実施している。	ミッションハウス合同で火災を想定して、非常階段やエレベーターを使用して利用者と一緒に避難訓練をしたり、洪水を想定して3階への垂直避難も実施した。次回はシーツや布団等を利用した搬送、避難訓練を計画している。また、備蓄品の準備も進めている。	避難訓練の時に消防署の立ち会いも考えてみてはどうでしょうか。避難経路や利用者の状態等を把握してもらいたい機会と思う。また、近隣住民との協力体制も検討してみてください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のチーム会での話し合いやケアの見直しをしている。抑制虐待防止委員会などでもケアについて振り返りをしている。	本人の意思を尊重し、その人のペースで過ごしてもらう等、その人なりの生活スタイルを尊重している。呼称は苗字以外に本人の希望で愛称で呼ぶ事もある。トイレ介助時は外で待つ、入浴は同性介助にする等、プライバシーや羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意思が伝えられる方は、話を傾聴している。上手く思いが伝えられない方には、ゆっくり時間をかけコミュニケーションを図り、会話や仕草より意思をアセスメントしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴の時間など本人の意思を大切に、本人のペースや体調、要望に合わせて対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は毎日お化粧をされる方もいる。自身で身だしなみを整えることが難しい方は本人の意見を聞きながら介助をしている。また、散髪を希望された際には、博愛会病院より美容師がカットに来てくれておりなじみの関係ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の際は、パン、ご飯、お粥の希望を聞き提供している。自身でお粥やおにぎりを作られることもある。また、食事の配膳、下膳、食器洗いが役割となっている方もいる。毎月旬の食材を使った行事食を計画している。	法人が利用している業者に外注し、数日分まとめて食材が来るので食品庫に大きな冷蔵庫が備えてある。コロナ禍のため、利用者と一緒に食事は出来なかったが、ムース食、ソフト食、普通食等、個々の食事形態に合わせて提供している。毎月のおやつ作りを楽しんでいる様子が写真からもうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量の把握を行っている。浮腫や水分摂取量が少ない方など状態をみながら水分チェックをしている。本人が好きな物や高カロリーの栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思を尊重しながら、声掛けし自身で難しい方は毎食後口腔ケアを実施している。義歯を使用している方は洗浄剤を使い、清潔に保つことが出来るようにしている。希望があれば歯科の往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、パットの種類の検討をしている。また、本人のしぐさや会話、時間を見ながらトイレ誘導を行い失禁が少なくなうよう工夫している。	オシメや紙パンツの人もいるが、布パンツにパットで過ごしている人が多く、定期的または適宜必要に応じて声かけ誘導しながら排泄の自立支援に繋げている。また、個々に合わせた排泄用品のサイズや種類を検討して快適に過ごしてもらえるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	豆乳の提供や運動、マッサージなど取り入れている。排便状態を確認し、医師や看護師へ相談し下剤の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽が跨げない方やゆっくり温まりたい方はミスト浴を利用している。本人の希望や状態を見ながら入浴を検討している。入浴拒否がある方は、夜間入浴をすすめるなど工夫している。	2階の浴室は広く、車椅子で入れる機械浴（ミスト浴）が設置されており、現在3名が利用している。大半の人は3階の一般浴槽でゆっくり湯船に浸かって職員と楽しく会話しながら入浴している。入浴拒否のある人には、主治医から声かけしてもらおう事もあり、案外すんなりと入ってくれと聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の要望を聞きながら活動する時間、居室で休む時間設けている。一人で過ごす事がさみしい方は、リビングで職員とともに過ごされている。夜眠れない方は職員とお茶をのみゆっくり過ごされる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった際は、申し送りや連絡ノートで伝達し情報の共有をしている。薬の処方、効能、副作用などが確認できるよう個人ファイルにお薬の説明文章を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体を動かすことが好きな方は、毎日散歩に出かけている。入居者の方同士の会話や職員との会話から要望を聞き、行事を計画している。また、季節を感じれるよう行事の計画や壁画、作品作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスのため外出する機会が少ないが、季節を感じてもらえるよう春にはお花見ドライブに出かけた。秋に向けても検討している。	秋には紅葉狩り、春は花見に出かける等、非日常的な楽しみも出来る限り行うように努めている。定期的にホーム近くの教会に礼拝に行く人や散歩に出かける人には職員が付き添い気分転換をしてもらっている。今日も「行ってきます」と元気よく散歩に出かける人の姿を見かけた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外部へ買い物に出かける事が難しいため、病院の売店へ買い物に出かけるなど工夫をしている。お金の自己管理が難しいかたもおられるため立て替え金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、ご家族や友人の方へ電話をかけている。また、友人の方から定期的に連絡がある方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、季節に合わせた飾りや入居者の方の作品、お花を飾っている。ペランダでは、花や野菜を植え季節を感じてもらえるようにしている。天候をみながら空調管理、温度調整もしている。	カーテン・椅子等も2階はピンク、3階はブルーで統一される等、色もユニットカラーがあり、明るく開放的な空間になっており、テーブル、ソファ等も配置を考え、それぞれが思い思いに好きな場所でゆっくり寛ろいでいる。リビングにある水槽でメダカ等を飼育し、餌やりも利用者がしてくれるそうだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者の方同士で会話が楽しめるようにテーブルや椅子、ソファの配置をしている。ゆっくり本や新聞、テレビが見えるスペースや趣味活動ができる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物(写真や本人の作品など)を持参されている方もおられ、ご家族と相談しながら居室環境を作っている。	居室を見れば「もう一つの我が家をめざして」の理念が実現されているのがよく分かる。まるで書斎のようなAさんの居室には立派な本棚が置かれ、じっくり愛読書が並び、他にも家族の写真に囲まれた居室等、それぞれ家庭の延長のようなその人らしい居室になっており、居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、移動しやすい家具を配置している。居室環境では、本人やご家族の要望を聞きながらベッドの配置を検討している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390120766		
法人名	社会福祉法人 岡山博愛会		
事業所名	グループホーム まこと ユニット共有		
所在地	岡山市中区御幸町4-1		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2020年岡山博愛会の誕生の地に在宅サポートセンターミッションハウス、グループホームまことが開設した。1階には、御幸町クリニック、看護小規模多機能型居宅介護のぞみ、2、3階にグループホームがあり、「在宅支援」「医療支援」「認知症支援」の3つの支援体制で安心した生活が送れるよう支えます。また、隣接している博愛会保育園があり、子どもたちと触れ合うことで笑顔が増え、安らぎの場作りと生活の向上を目指します。「もう1つの我が家をめざして」を目標に入居者の方、ご家族の要望や希望を大切に実現出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「自分がして欲しいように人にしてさしあげる」を基本に「もう一つの我が家をめざして」を目標に掲げ、入居者の方、ご家族の希望や要望を実現出来るように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスのため地域との交流が難しいが、入居者の方、職員ともに散歩や外部に出た際は、近所の方に挨拶や会話をする事がある。隣接する博愛会保育園の園児と春はさつま芋植え、秋には収穫をし交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が地域の貢献に配慮して、介護等における相談にも応じている。今年の秋より専門学生の実習の受け入れをする予定になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスのため会議は開催できていないが、ご家族、地域、包括支援センター職員へ書面にて活動報告し要望、評価、助言をもらっている。意見は、活動や勉強会に取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度相談し助言をもらっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待防止委員会を中心に、入居者の方の現状把握や環境の見直しを行い、職員間で情報の共有し日々のケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待防止委員会を中心に、勉強会を実施し職員の意識や知識を統一し防止に努めている。また、ケアの振り返りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方1名。制度について勉強する機会がすくないため、今後勉強会の実施を検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書、重要事項説明書にて説明を行っている。その都度ご家族の度意見を確認している。変更時にも説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話をかけた際には、近況報告、毎月のお便りを送付し、ご家族と意見交換している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員間で情報交換している。また、毎月チーム会を実施し、意見や提案した内容を取り入れられるようにしている。当日、参加できない職員には、事前に意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットリーダーとともに職員の労働状況の情報共有や、個々にも声掛けを行っている。また、職員が入居者の方に対して提供したいケアが出来るように取り組んでいる。勤務時間や希望休についてできるかぎり要望を聞き調整し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスのため、外部研修には参加出来ていないが、法人内の研修に参加し一人ひとり知識を深めている。まこと内でも委員会を中心に勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の際、情報交換を行っている。また、同建物内の看多機職員と情報交換しミッションハウス全体で入居者の方のケアが出来るように協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談へ行った際、本人やご家族の思いや不安などを聞き少しでも対応することで不安の軽減が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時、ご家族の要望や思いを聞いている。入居後、面会時などには近況を報告し、再度要望を聞き、安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご家族に会える際は、不安や困っていること、サービスを受けている事業所や病院から情報を得、職員間で話し合いケアへと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の味付け、準備、片付け、掃除、洗濯たたみ、野菜作りなど職員と共に協力、支えながら生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、テレビ電話を活用したり職員が間を取り持ち関われるように機会を設けている。お便りや新聞にて近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため直接会うことは難しいが、手紙のやりとりをしている方もいる。また、友人の方が尋ねてこられ、テレビ電話にて面話し話が出来るように支援している。定期的に友人の方が電話をかけてこられる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操や歌を歌ったり、作品作りなどを通じて他者と交流ができる時間を設けている。一人で過ごすことが好きな方もおられ、居室で過ごしている際は職員が訪室しコミュニケーションを図っている。また、入居者の方お部屋に尋ねて行く姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供を行っている。法人内の施設や病院へ退去された方へ会いに行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中や生活歴、ご家族から自宅での様子等を聞き、好きなことや趣味活動など日々のケアの中に取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族へフェイスシートを記入してもらい情報を得ている。また、本人やご家族との会話の中からも情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の発言や行動、表情など生活記録へ記入し状況の把握に努めている。職員間での申し送りやチーム会で一人ひとりの状態を話し合い情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケアプランの評価、毎月総合的に評価を行っている。ケアプラン立案の際には、ご家族の要望の取り入れや職員間で話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や日々のモニタリングに評価を記入し、カンファレンスで検討している。連絡ノート等活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニットでその都度ミーティングを行い、対応している。また、1階にある御幸町クリニックや看多機のぞみ職員へ相談し助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接している博愛会保育園の園児と交流ができるよう、春と秋には交流の機会を作っている。日頃では、窓越しに手を振り合う姿もみられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の希望を聞きかかりつけ医を決めている。その都度体調の変化が見られた際には、報告し情報の共有をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃からコミュニケーションを図り、状態の把握をし、変化時は連絡、指示を受け早期対応ができる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院へ訪問し相談員、看護師に状態を確認するなど対応している。早期退院出来るように医療関係者と連携し情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、急変時の治療方針や看取りの方針など意向を聞き書面へ記載している。希望の変更がある際は、その都度対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の対応がすぐに確認できるようにマニュアルの作成や勉強会を行っている。事故発生時は、ミーティングを開催し対策、方法を検討、見直しをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同建物内にある看多機やクリニックの職員とともに年2回消防訓練、災害時避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のチーム会での話し合いやケアの見直しをしている。抑制虐待防止委員会などでもケアについて振り返りをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意思が伝えられる方は、話を傾聴している。上手く思いが伝えられない方には、ゆっくり時間をかけコミュニケーションを図り、会話や仕草より意思をアセスメントしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴の時間など本人の意思を大切に、本人のペースや体調、要望に合わせて対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は毎日お化粧をされる方もいる。自身で身だしなみを整えることが難しい方は本人の意見を聞きながら介助をしている。また、散髪を希望された際には、博愛会病院より美容師がカットに来てくれておりなじみの関係ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の際は、パン、ご飯、お粥の希望を聞き提供している。自身でお粥やおにぎりを作られることもある。また、食事の配膳、下膳、食器洗いが役割となっている方もいる。毎月旬の食材を使った行事食を計画している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量の把握を行っている。浮腫や水分摂取量が少ない方など状態をみながら水分チェックをしている。本人が好きな物や高カロリー栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思を尊重しながら、声掛けし自身で難しい方は毎食後口腔ケアを実施している。義歯を使用している方は洗浄剤を使い、清潔に保つことが出来るようにしている。希望があれば歯科の往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、パットの種類の検討をしている。また、本人のしぐさや会話、時間を見ながらトイレ誘導を行い失禁が少なくなうよう工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	豆乳の提供や運動、マッサージなど取り入れている。排便状態を確認し、医師や看護師へ相談し下剤の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽が跨げない方やゆっくり温まりたい方はミスト浴を利用している。本人の希望や状態を見ながら入浴を検討している。入浴拒否がある方は、夜間入浴をすすめるなど工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の要望を聞きながら活動する時間、居室で休む時間設けている。一人で過ごす事がさみしい方は、リビングで職員とともに過ごされている。夜眠れない方は職員とお茶をのみゆっくり過ごされる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった際は、申し送りや連絡ノートで伝達し情報の共有をしている。薬の処方、効能、副作用などが確認できるよう個人ファイルにお薬の説明文章を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体を動かすことが好きな方は、毎日散歩に出かけている。入居者の方同士の会話や職員との会話から要望を聞き、行事を計画している。また、季節を感じれるよう行事の計画や壁画、作品作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスのため外出する機会が少ないが、季節を感じてもらえるよう春にはお花見ドライブに出かけた。秋に向けても検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外部へ買い物に出かける事が難しいため、病院の売店へ買い物に出かけるなど工夫をしている。お金の自己管理が難しいかたもおられるため立て替え金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、ご家族や友人の方へ電話をかけている。また、友人の方から定期的に連絡がある方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、季節に合わせた飾りや入居者の方の作品、お花を飾っている。ベランダでは、花や野菜を植え季節を感じてもらえるようにしている。天候をみながら空調管理、温度調整もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者の方同士で会話が楽しめるようにテーブルや椅子、ソファの配置をしている。ゆっくり本や新聞、テレビが見えるスペースや趣味活動ができる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物(写真や本人の作品など)を持参されている方もおられ、ご家族と相談しながら居室環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、移動しやすい家具を配置している。居室環境では、本人やご家族の要望を聞きながらベッドの配置を検討している。		